

3月2日の講演会で皆様からいただいた質問に対し簡潔にお答えします。

鮎沢 潤

■ プレート境界は、えりも町ではなく様似町である。

→ご指摘のとおりです。「襟裳岬の近くにある様似町」と紹介すべきでした。

■ 道東の地質の話や、石炭の形成の話などを詳しく聞きたい。

■ 釧路市東方の海岸線の地層のことも詳しく知りたかった。

→当初は、このあたりのお話を骨格のひとつに考えていましたが、時間が足りないことがわかり短縮しました。インターネットからダウンロードが可能な論文として、君波和夫(1975)根室層群の堆積学的検討その1.地質学雑誌, **81**, 215-232. や 君波和夫(1978)根室層群の層序の再検討. 地球科学, **32**, 120-132. などがあります。博物館や大学図書館が利用できれば日本地質学会(2010)日本地方地質誌 北海道地方,朝倉書店 なども参考になるでしょう。

■ 亜炭は褐炭の一種なのか。

→日本では法令上、亜炭と石炭は区別され、石炭化度の低い石炭が褐炭です。アメリカでは広義の亜炭を物理的性質から狭義の亜炭(lignite)と褐炭(brown coal)に分けた例もあります。

■ 石炭と植物の対応と変化は理解できたが、世界的な変化が良くわからなかった。

→世界の主要な石炭は古生代石炭紀(約3億年前)ですが日本炭の多くは新生代古第三紀-新第三紀で海外より1/10程も若いです。当然、石炭をつくるもとの植物が異なります。

■ 世界と日本の石炭、釧路の石炭の特徴について知りたい。

→やや専門的ですが藤井敬三ほか(1979)釧路炭田地域における亜瀝青炭の石炭岩石学的研究について.地質学雑誌, **84**, 539-547 などが参考になるでしょう。資源地質学会(2003)資源環境地質学. 資源地質学会 はお尋ねの内容を含む教科書ですが公立図書館には置いていない場合が多いように見受けられます。

■ 同じ炭田の中でも原料炭と一般炭の両方が産出するメカニズムは何か。

→難しい問題があるのですが、石炭をつくる植物部材の違い、石炭化の比較的早い段階で熱を受けたところ・そうでないところがあった、などが主な原因と考えられています。

■ 太平洋炭砦から KCM に移行しつつ存続できた理由を石炭地質の観点から聞きたかった。

■ 石炭の歴史と人の文化についての視点で話を聞きたい。

■ 石炭労働者の生活のお話を聞きたい。

→石炭の中のイオウ分が低い、採炭の支障となる断層や水の通り道が少ない、などの利点が

挙げられますが、陸上や海底の詳細な地質調査が行われていて、どこに・どのような品位の石炭がどれだけあるかわかっていた点も見逃せないでしょう。ご意見を予想して夕張地域史研究資料調査室の青木先生・早稲田大学の清水先生からコメントをいただきましたが、両先生の講演会を企画していただけると楽しみです。

■ CO₂を蓄える経費コストはどうなっているのか。

■ CO₂を地中にとじこめる方法を、もっと分かりやすく聞かせて欲しかった。

→石炭を掘った後の地下空間へ火力発電所から出る灰を送りこむ充填は以前から行われてきましたから、二酸化炭素の固定を新たに加えても膨大なコストが生じるものではありません。ただし、安全・安定に二酸化炭素を閉じこめる点に関しては十分な時間と労力をかける必要があるでしょう。詳細は経済産業省資源エネルギー庁や（一財）カーボンフロンティア機構のホームページなどでも知ることができます。